

## ■ベースメタル国際動向

# 1. 銅の国際市況と需給動向（2005年2月）

金属資源開発調査企画グループ

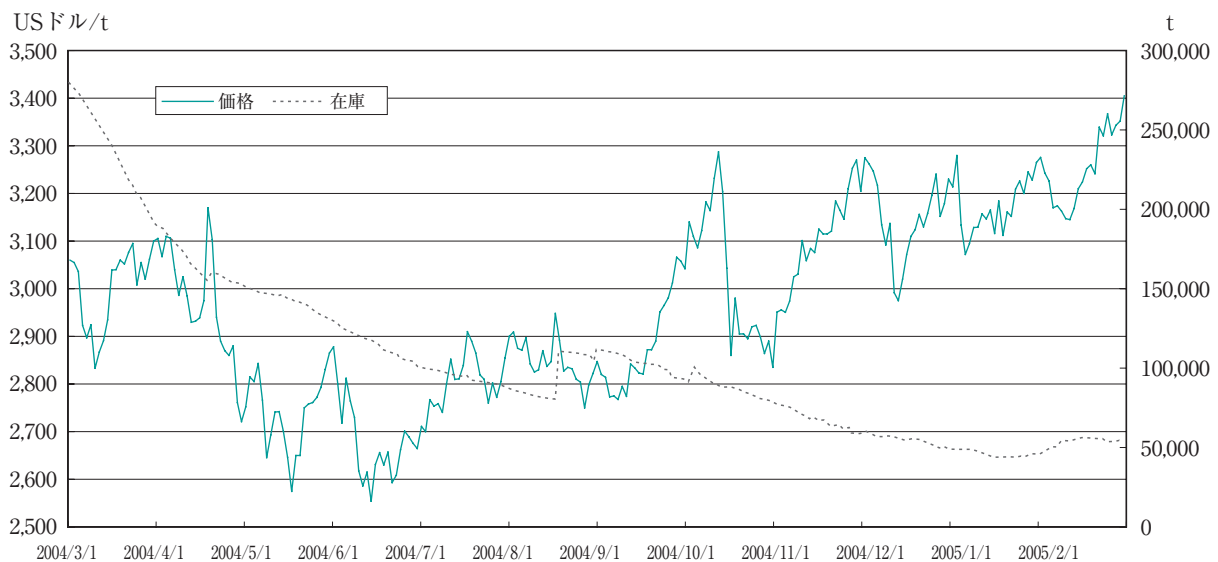
1. 銅のLME価格は年始に一時下落したものの、需給バランスのタイト感や米ドル安を背景に上昇を続け、2月末には3,400ドル超え。
2. 2004年通年の需給バランスは706千tの供給不足。但し、第3四半期以降、需給は緩和の方向。
3. 2005年は国際銅研究会、主要生産者等とも2005年の後半以降、供給増加及び地金消費の伸び鈍化により、需給は緩和し価格は軟化の方向と予想（ロイターによれば2005年中央値2,712ドル/t、2006年は2,401ドル/t）。

### 1. 国際価格

銅のLME価格は年始に一時下落し3,100 USドル台を割り込んだが、その後は、需給バランスのタイト感や米ドル安を背景に上昇を続け、2月末には3,400ドル超え。

2004年末3,279.5USドル/tを記録して終了していたLME銅価格は年明け早々下落し、1月5日には3,100USドル台を割り込んだ。これは前年末に最安値を更新した米ドルが自律反転したものの。その後は依然堅調な需給ファンダメンタルズを背景に

3,200USドル台を回復。2月は、米ドル安、原油高騰を背景に再びファンド資金の流入が加速されたため、2月18日には3,300USドル台を突破、2月28日には3,405USドルと3,400USドル台を記録して終了した。



銅	2004年											2005年	
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
LME在庫 (t)	187,400	151,200	132,250	101,475	87,600	111,325	91,800	77,925	59,775	48,875	46,350	52,650	
平均価格(現物) (USドル/t)	3,009	2,949	2,734	2,687	2,808	2,846	2,895	3,012	3,123	3,145	3,170	3,253	

図1-1 銅地金価格と銅在庫量の推移

出典：国際銅研究会資料

## 2. 需給 (2004年)

- ・2004年の世界の鉱山生産量は前年同期比6.1%増の14,513千t。地金生産量は前年比3.6%増の15,785千t。
- ・世界の需要量は5.5%増の16,486千t。中国、米国、日本等がけん引。
- ・その結果、2004年の需給バランスは706千tの供給不足となり、2003年の2倍に拡大。
- ・一方、LME在庫量は1月中旬に45千tを割り込んだものの、その後増加し55千tまで回復。2月中旬以降再び減少傾向に（2月28日現在約54千t）。

## &lt;供給&gt;

2004年の鉱山生産は6.1%増の14,513.0千tであった。月別の鉱山生産を見ると、04年5月以降は1,200千t台に達した後そのレベルを維持し、12月は1,346.7千tと04年最高値を更新した。鉱山の設備稼働率も6月以降93%前後と高いレベルで推移、10月以降さらに上昇し12月は97.2%まで上昇した。2004年の国別生産量は、最大生産国チリが508.3千t増(+10.4%)、3位ペルーが192.9千t増(+22.9%)と大幅増産となり、5位インドネシアの160.3千t減(-16.0%)を補い、全体としての増産に貢献した。

2004年の地金生産は3.6%増の15,784.5千tであった。月別の精錬生産は徐々に上昇、12月は1,382.8千tを記録した。稼働率は80%台で徐々に上昇傾向にある。2004年の国別生産量は、最大生産国のチリ（EW生産を含む、以下同様）が0.2%減、3位日本が3.4%減であったものの、2位中国が10.8%増、5位ロシアが9.1%増、6位ドイツが9.3%増となっており、全体では3.6%増となった。

## &lt;需要&gt;

国別の2004年の需要量は、最大消費国中国が3.6%増、2位米国5.4%増、3位日本6.3%増、4位ドイツ9.5%増で、世界計では前年比5.5%増の16,486.4千tであった。

## &lt;需給バランス&gt;

2004年は701.9千tの供給不足であった。04年2-4月に月毎に100千t台の供給不足が発生した後供給不足量は減少し、7、8月は供給過剰、その後供給不足と供給過剰を繰り返しており、12月は107千tの供給過剰となっている。

## &lt;在庫&gt;

金属取引所の在庫量は、年明けに入ってから減少を続け、1月13日には45千tを割り込んだ。その後55千tまで戻したものの低水準で横ばい傾向で、2月28日時点のLME在庫量は約54千t。

表1-1 銅の需給状況

単位：千t

銅	2003	2004												前年比 (%)	
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		年計
鉱山生産量	13,674	1,076	1,046	1,167	1,183	1,213	1,212	1,238	1,247	1,228	1,293	1,282	1,347	14,527	6.2
地金生産量	15,234	1,264	1,217	1,314	1,280	1,270	1,282	1,335	1,346	1,343	1,356	1,363	1,383	15,781	3.6
一次地金生産量	13,461	1,119	1,069	1,151	1,105	1,103	1,119	1,164	1,188	1,185	1,191	1,202	1,228	13,805	2.6
二次地金生産量	1,773	145	148	163	175	167	163	171	158	158	165	161	155	1,976	11.4
消費量	15,620	1,337	1,346	1,509	1,408	1,336	1,387	1,330	1,277	1,410	1,345	1,430	1,276	16,486	5.5
需給バランス	-386	-73	-129	-195	-128	-66	-105	5	69	-67	11	-67	107	-705	

出典：国際銅研究会資料

表1-2 LME国別銅在庫量の推移

単位：千t

国名	2004年												2005年
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	
ベルギー	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
フランス	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
ドイツ	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
イタリア	4.900	3.150	4.000	1.650	0.000	0.000	0.050	0.050	0.050	0.000	0.000	0.000	2.250
韓国	0.000	0.000	2.000	3.475	3.475	2.725	12.075	6.125	7.875	2.975	1.500	1.100	1.100
マレーシア	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.800	1.100	1.200	1.200	1.125	1.125	1.125
オランダ	0.450	0.400	5.750	2.125	0.050	0.000	0.000	0.000	0.000	1.850	1.275	2.100	2.100
シンガポール	0.000	0.000	0.000	1.500	4.300	3.575	29.925	24.000	23.675	15.050	9.275	3.825	3.825
スペイン	16.400	4.375	3.050	1.350	0.475	0.475	0.475	0.100	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050
スウェーデン	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.050	0.050	0.350	0.650	1.050	1.050
アラブ	0.300	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	1.600	1.600	1.600	0.800	0.000	0.000	0.000
イギリス	19.225	12.400	10.075	8.575	0.400	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
米国	240.200	167.050	126.300	113.550	92.750	80.825	66.400	58.775	43.425	37.500	35.000	34.850	34.850
合計	281.500	187.400	151.200	132.250	101.475	87.600	111.325	91.800	77.925	59.775	48.875	46.350	46.350

出典：国際銅研究会資料

## &lt;今後の市場見通し&gt;

2005年は国際銅研究会、主要生産者等とも2005年の後半以降、供給増加及び地金消費の伸び鈍化により、需給は緩和し価格は軟化の方向と予想（ロイターによれば2005年中央値2,712ドル/t、2006年は2,401ドル/t）。一方、China Minmetalsは、中国国内要因、LME在庫の低水準さ、若干の供給不足から下落幅は限定的とも予想。また、3月のPDACにおいてBarclays Capital社は2005年の需給バランスは277千tの供給不足で2004年に比べ大幅に縮小するものの、在庫の減少傾向は依然継続するとし、金属価格は底固く2005年の平均価格を2,900ドル/tと予想している。

## 2. 鉛の国際市況と需給動向（2005年2月）

金属資源開発調査企画グループ

1. 鉛の国際価格は、中国等の需要の急拡大による供給不足とLME在庫が減少していることから、昨年末に1,056ドル/tの2004年最高値を付けた。2005年に入っても900ドル台を維持している。
2. 2004年の世界の需給バランスは114千tの供給不足。
3. 2005年は、地金生産拡大と消費の伸び鈍化により、需給バランスは緩和の方向であるが、依然76千tの供給不足が予想されている。

### 1. 国際価格

鉛の国際価格は、中国等の需要の急拡大や米国のドル安・低金利政策に加えLME在庫が極端に減少していることから上昇を続け、年末には1,056ドル/tの2004年最高値を付けた。2005年に入っても900ドル台を保ち、2月末時点での価格は980ドル/t。

鉛の国際価格は、中国等の需要の急拡大や米国のドル安・低金利政策等により、2003年秋以降価格上昇が続き、2004年2月には971ドル/tと1990年以来14年振りの高値となった。12月は900ドル台後半

で推移していたが、年末は1,056ドル/tの2004年最高値を付けた。2005年の年始に一時下落したものの、900ドル台を保ち、2月22日には1,013ドル/tまで上昇した。2月末時点での価格は980ドル/t。

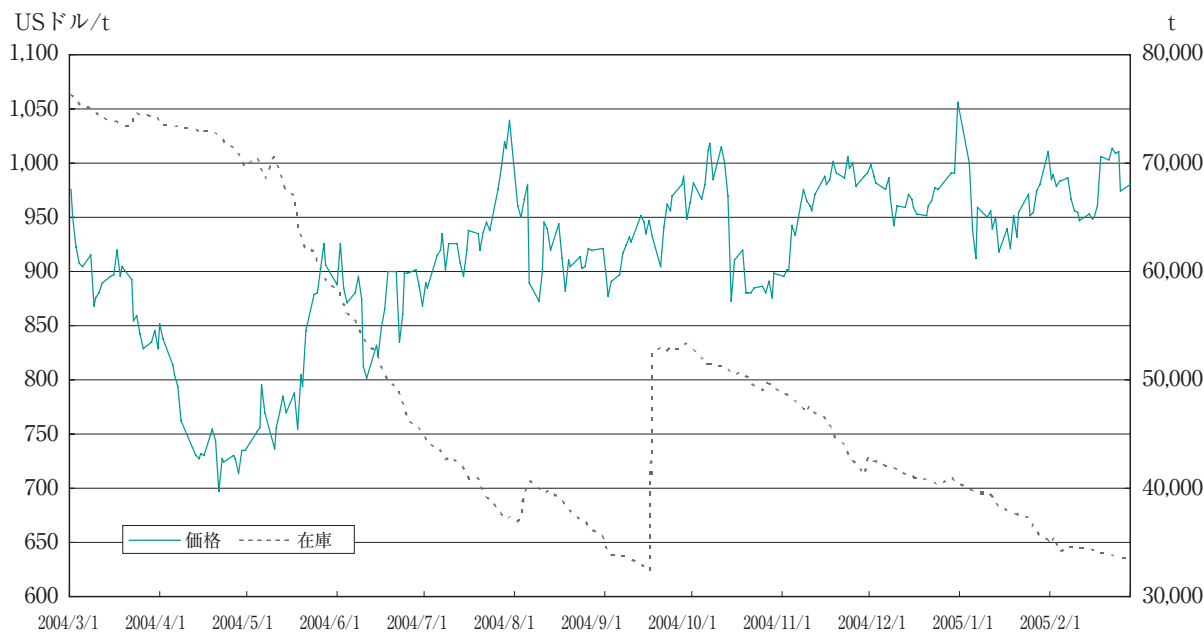


図2-1 鉛価格と鉛在庫量の推移

出典：国際鉛亜鉛研究会資料

## 2. 需給 (2004年1~12月)

- ① 鉱山生産は、米国の減産により0.9%の微減。地金生産は中国、ドイツ、カザフスタンで増加し1.1%増。消費は中国、スペイン、台湾で増加し、2.6%増。
- ② 2004年の世界の需給バランスは、114千tの供給不足。
- ③ LME在庫量は減少を続け、2005年2月末には33.6千tまで減少。

2004年(1~12月)の鉛鉱山生産は3,069千tであり、前年比0.9%の微減となった。これは、主に米国で19千tの減産となったこと等による。2004年の鉛地金生産は、前年比1.1%増の6,790千tであった。主な増産国は中国(15.9%増)、ドイツ(12.3%増)、カザフスタン(20.6%増)であり、主な減産国は米国、英国、モロッコ、豪州である。日本の鉛地金生産は4%減の283千tであったが、英国、豪州も減産となったため前年の世界6位から順位を上げ、2004年は世界第4位の鉛地金生産国となった。

2004年の鉛消費量は、6,962千tと前年比2.6%増となった。中国で107千t(9.0%)、スペインで30千t(13.9%)、台湾でも23千t(16.8%)増加した。日本の鉛消費量は31千t減少し217千tとなった。世界ランクも下がり、世界第9位となった。

2004年の世界の鉛需給バランスは、供給不足量が昨年より拡大しており、米国備蓄放出分も考慮すると114千tの供給不足となった。

LME鉛在庫量は、2004年9月にシンガポール倉庫の在庫増により53千tまで回復したが、その後減少を続け2005年2月末には33.6千tまで減少した。

表2-1 鉛の需給状況

単位：千t

鉛	2003	2004									前年比 (%)
		第1四半期	第2四半期	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年計	
鉱山生産量	3,097	723	780	268.6	255.6	253.0	267.8	260.5	260.4	3,069	-0.9
地金生産量	6,718	1,639	1,724	542.9	532.2	575.8	597.3	590.8	588.4	6,790	1.1
米国備蓄放出	60	15	14	5.7	3.0	7.3	4.1	4.3	4.5	58	
消費量	6,782	1,786	1,707	577.3	554.7	577.9	589.6	586.1	583.0	6,962	2.6
需給バランス	-4	-132	31	-28.7	-19.5	5.2	11.8	9.0	9.9	-114	

出典：国際鉛亜鉛研究会資料

表2-2 LME国別鉛在庫量の推移

単位：千t

国名	2004年											2005年
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
米国	63.3	60.0	55.7	42.9	31.1	23.4	16.8	13.7	12.3	8.3	7.1	4.9
イタリア	12.3	12.3	12.3	10.3	10.3	9.5	9.8	9.8	9.8	9.8	9.5	9.5
オランダ	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	4.3	4.3	2.7	1.8	1.6	0.9
シンガポール	0.3	1.3	1.0	5.2	3.1	4.0	4.3	25.0	24.1	23.0	22.3	19.9
その他	0.4	0.4	0.3	0.4	0.3	0.4	0.4	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0
合計	76.6	74.3	69.6	59.1	45.1	37.5	35.6	53.1	49.2	42.9	40.5	35.2

出典：国際鉛亜鉛研究会資料

### <今後の需給見通し>

2005年は生産の増加、需要の伸びの鈍化により、需給は緩和の方向。国際鉛亜鉛研究会によれば、昨年10月の発表で、2005年は2004年と比べて供給

不足量が縮小し、76千tとなると予測。

Metal Bulletin誌による2005年の鉛平均価格予想は、740~1,000ドル/tの範囲。

### 3. 亜鉛の国際市況と需給動向（2005年2月）

金属資源開発調査企画グループ

1. 亜鉛の国際価格は、中国等の需要の急拡大による供給不足とLME在庫が減少していることから、昨年末に2004年最高値を付けた。2005年に入っても続伸し、2月末時点で1,385ドル/tまで上昇した。
2. 2004年の世界の需給バランスは、172千tの供給不足となった。年ベースでの供給不足は、1999年以来5年振りのことである。
3. 2005年の需給バランスは、引き続き118千tの供給不足になると予測されている。鉱石増産が予定通り進まない場合、供給不足量が拡大していく可能性がある。

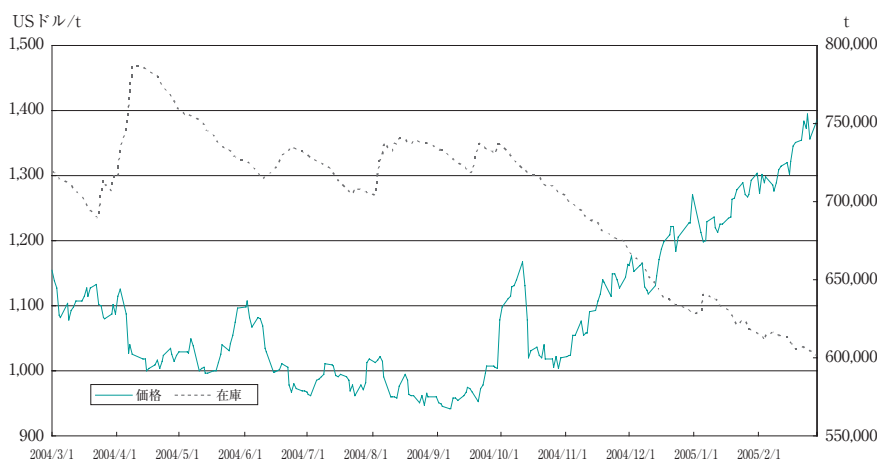
#### 1. 国際価格

亜鉛の国際価格は、中国等の需要の急拡大による供給不足とLME在庫が減少していることから昨年末に2004年最高値を付けた。2005年に入っても続伸し、2月末時点で1,385ドル/tまで上昇した。これは1997年9月以来7年振りの高値。

亜鉛の国際価格は2003年秋以降上昇し、2003年末には1,000ドル/t台に回復した。2004年11月以降はドル安の進行に加え、LME在庫が減少していること等を材料に亜鉛価格は上昇を続け、年末には2004年最高値となる1,270ドル/tを付けた。

2005年に入り、年始には価格は一時下落したも

の、1月に中国で電力不足による亜鉛製錬所減産、2月10日には2006年3月で豊羽鉱山操業休止が伝えられたこともあり、LME価格の上昇が続き、2月末時点で1,385ドル/tまで上昇した。これは1997年9月以来7年振りの高値。



亜鉛	2004年										2005年	
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
LME在庫 (t)	716,425	759,300	727,350	730,125	705,225	734,175	736,450	705,150	669,825	628,625	615,925	601,600
平均価格 (USドル/t)	1,106	1,033	1,028	1,021	988	976	975	1,065	1,096	1,180	1,246	1,326

出典：国際鉛亜鉛研究会資料

図3-1 亜鉛価格と亜鉛在庫量の推移

## 2. 需給 (2004年1~12月)

- ① 鉱山生産は前年比0.8%の微増。地金生産は、中国、ナミビアで増加し、3.2%増。消費は中国、米国で増加し5.6%増。
- ② 2004年の世界の需給バランスは172千tの供給不足。
- ③ LME在庫量は、2月末に602千tまで減少。

2004年(1~12月)の亜鉛鉱山生産は9,649千tであり、対前年比0.8%の微増となった。中国、ナミビアで大幅な増産があったが、豪州及びペルーで各10%程度の減産となった。

2004年の亜鉛地金生産は、10,181千tで、前年比3.2%増となった。地金生産の増加は、中国の200千t増、ナミビアの71千t増が主要因である。豪州では製錬所の閉鎖により80千t減少した。日本は16千tの減産となり、24千t増産した韓国に追い抜かれ、2004年の地金生産は韓国が第3位となり、日本は世界第4位に後退した。

2004年の亜鉛消費量は、10,387千tで前年比5.6%の増加。中国で225千t(10.4%)増、米国

でも110千t(9.5%)増加している。日本の亜鉛消費量は4千tの微増で623千tであった。前年に引き続き世界第3位である。

米国備蓄放出を考慮した2004年の世界の需給バランスは、172千tの供給不足となった。年ベースでの供給不足は、1999年以来5年振りのことである。亜鉛のLME在庫量は、2003年10月以降、700千t台で安定していたが、2004年11月末には669千tと700千tを割り込んだ。2005年2月末には602千tまで5か月連続して減少している。LME亜鉛在庫量は銅・鉛・ニッケルと比較すると依然として高い水準にはあるが、今後も引き続き減少していく可能性がある。

表3-1 亜鉛の需給状況

単位：千t

亜鉛	2003	2004									前年比 (%)
		第1四半期	第2四半期	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年計	
鉱山生産量	9,577	2,326	2,405	830.9	814.3	816.7	829.3	799.4	826.0	9,649	0.8
地金生産量	9,869	2,459	2,549	838.0	856.7	857.7	870.3	852.5	897.7	10,181	3.2
米国備蓄放出	7	3	14	1.8	5.1	2.2	2.4	2.4	3.4	34	
消費量	9,834	2,516	2,646	866.7	874.1	871.5	867.1	886.7	859.3	10,387	5.6
需給バランス	42	-54	-83	-26.9	-12.3	-11.6	5.6	-31.8	41.8	-172	

出典：国際鉛亜鉛研究会資料

表3-2 LME国別亜鉛在庫量の推移

単位：千t

国名	2004年											2005年
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
米国	346.9	345.1	345.2	336.5	327.4	317.6	329.9	324.6	318.5	309.7	293.0	306.7
イタリア	42.9	52.6	77.2	76.3	102.6	102.1	124.1	123.0	121.8	118.2	112.1	106.5
UAE	114.6	124.6	165.2	153.8	148.2	140.1	132.3	124.0	113.1	102.1	92.9	86.7
シンガポール	148.9	125.9	110.5	99.8	98.6	97.3	101.4	114.8	101.7	92.4	84.9	76.5
オランダ	38.3	39.3	37.5	38.3	36.0	33.0	32.2	36.3	34.6	32.9	31.0	25.7
英国	18.9	18.5	13.3	12.8	12.2	11.8	11.4	10.9	10.5	10.3	9.8	9.6
その他	10.5	10.4	10.4	9.9	5.1	3.3	2.9	2.9	5.0	4.2	4.9	4.2
合計	721.0	716.4	759.3	727.4	730.1	705.2	734.2	736.5	705.2	669.8	628.6	615.9

出典：国際鉛亜鉛研究会資料

#### <今後の需給見通し>

国際鉛亜鉛研究会によれば、昨年10月の発表で、2005年は引き続き118千tの供給不足になると予測。2004年の亜鉛鉱石生産は前年比2.1%増の9,773千tとの予測であったが、実際には0.8%増にとどまり、鉱石生産増が現実にはあまり進んでいない。2005年の鉱石生産予測（10,270千t）も達成

できるか不透明。鉱石増産が予定通り進まない場合、供給不足量が拡大していく可能性がある。

Metal Bulletin誌による2005年の亜鉛平均価格予想は、1,042～1,375ドル/tの範囲であったが、2月末時点での価格は、予想の上限を上回っている。亜鉛精錬加工賃（TC）は、鉱石不足により引き続き低迷する見込み。



## 4. ニッケルの国際市況と需給動向（2005年2月）

金属資源開発調査企画グループ

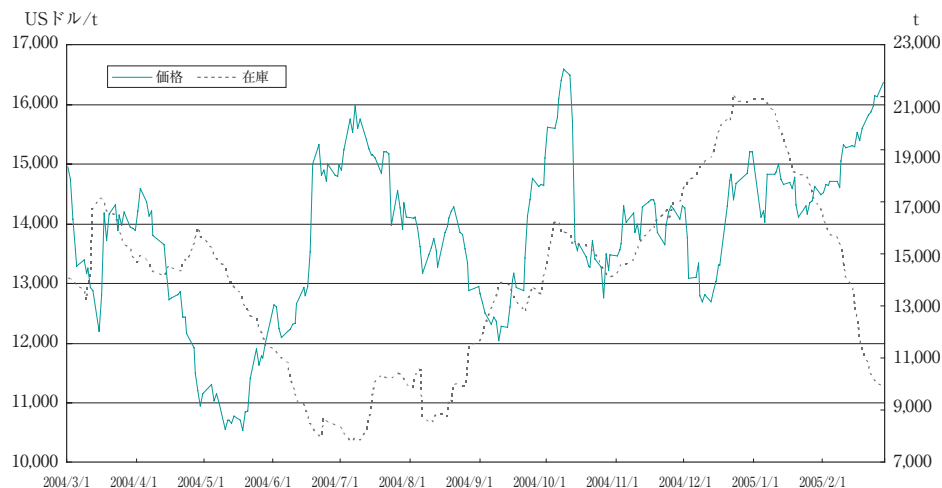
1. ニッケルの国際価格は2004年12月末時点で15,000ドル台となっていたが、2005年は1月はじめに14,105ドルへと急落。しかし、2月に入り上昇傾向に転じ、2月中旬には2003年10月以来の16,000ドル台を付け、2月末時点で16,375ドル。
2. 2004年1～12月の需給バランスは、若干（700t）の供給不足。LME在庫量は、2003年7月以降増加傾向であったが、2005年1月には減少に転じ、1月末時点で16,644t。
3. 今後の需給見通しについては、生産量の減少と中国需要の回復により、引き続き堅調な推移が予想される。

### 1. 国際価格

ニッケルの国際価格は2004年12月末時点で15,000ドル台となっていたが、2005年は1月はじめに14,105ドルへと急落。しかし、2月中旬からは在庫減少を背景に上昇傾向に転じ、2月後半には2003年10月以来の16,000ドル台を付け、2月末時点で16,375ドルとなっている。

ニッケル国際価格は、2004年12月末時点で15,000ドル台となっていたが、2005年は1月4日に14,105ドルへと急落。しかし、その後はLME在庫減少などからの需給タイト感を材料に反転し、14,000ドル台半ばで推移し、2月中旬からは他の非

鉄金属同様、堅調な需給に下支えされ15,000ドル台を維持。2月16日からは上昇傾向が続き、2月24日には16,150ドルを付け、昨年10月以来の16,000ドル台となった。2月末時点で16,375ドルと高値を付けている。



ニッケル	2004年											2005年	
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
LME在庫 (t)	14,724	15,630	11,442	8,394	9,978	11,592	14,322	14,094	17,358	20,898	16,644	9,924	
平均価格 (USドル/t)	13,723	12,853	11,123	13,540	15,032	13,686	13,277	14,411	14,053	13,776	14,505	15,350	

図4-1 ニッケルの価格と在庫の推移

出典：国際ニッケル研究会

資料

ベースメタル国際動向

## 2. 需給 (2004年1～12月)

- ① 鉱山生産はカナダ、ニューカレドニアで増加し0.5% (6.5千t) の増。地金生産はカナダ、中国で増加し3.9% (46.8千t) の増。消費は中国、韓国で増加し1.3% (15.8千t) の増。
- ② 需給バランスは微量 (700t) の供給不足。
- ③ LME在庫量は、1月末時点で16,644tに減少。

2004年1～12月のニッケル鉱山生産は1,271千tで、対前年比0.5% (6.5千t) 増となった。最大生産国ロシアは前年並み、豪州は20.3% (36.4千t) 減だったが、カナダの15.5% (25.4千t) 増、ニューカレドニアの6.4% (7.2千t) 増が増加の主要因である。1～12月のニッケル地金生産は1,248千tで、対前年比3.9% (46.8千t) 増となった。最大生産国ロシアが0.7% (1.7千t) 減、豪州が6.3% (8.0千t) 減、ノルウェーが7.5% (5.8千t) 減、フィンランドが6.4% (3.3千t) 減、ニューカレドニアが15.1% (7.7千t) 減だったが、生産量第2位である日本の1.8% (3.0千t) 増、カナダの21.6% (26.9千t) 増、中国の14.6% (9.5千t) 増がこれを補った。1～12月のニッケル消費は1,249千tで、対前年比1.3% (15.8千t) 増。消費量第2位の中国が12.8% (16.0千t) 増、第3位の米国が1.6% (1.9

千t) 増、韓国が7.4% (7.0千t) 増であり、最大消費国である日本の0.5% (0.9千t) 減、台湾の3.4% (3.5千t) 減、イタリアの6.9% (4.8千t) 減、スペインの4.3% (2.0千t) 減を補った。

2004年1～12月の需給バランスは微量 (700t) の供給不足となり、国際ニッケル研究会が予測していたほどの供給不足 (1万トン以内) とはならなかった。理由としては、ニッケル価格高騰による低ニッケル含有ステンレスなどへのシフトや世界的なスクラップ使用の増大、ロシア ノリリスクによるLME倉庫へのニッケル大量持込などがあげられる。ニッケルの金属取引所在庫量は、2004年6月末8,394tまで落ち込み、その後回復し12月末時点では20,898tにまで増加したが、2005年1月末時点では16,644tに減少している。

表4-1 ニッケルの需給状況

単位：千t

ニッケル	2003	2004									前年比 (%)
		第1四半期	第2四半期	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年計	
鉱山生産量	1,264	317.5	316.4	100.5	102.3	108.6	108.3	106.9	110.3	1,271	0.5
一次地金生産量	1,201	314.9	310.1	98.3	105.6	102.6	104.1	105.5	107.1	1,248	3.9
消費量	1,233	310.7	316.3	104.4	97.3	102.7	105.6	105.7	106.1	1,249	1.3
需給バランス	-32	4.2	-6.2	-6	8.3	-0.1	-1.5	-0.2	1.0	-0.7	

出典：国際ニッケル研究会

表4-2 LME在庫の変遷 (2004年2月～2005年1月)

単位：t

国名	2004年											2005年
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
ベルギー	900	2,682	2,106	1,248	900	900	84	66	6			
ドイツ	1,332	960	750	630	630	564	522	420	396	366	216	126
イタリア	126	126	144	84	156	192	192	144	138	78	90	60
オランダ	7,974	7,920	10,350	7,776	4,770	3,444	4,224	3,582	2,460	858	3,024	1,758
シンガポール	1,032	978	756	594	1,362	1,950	2,604	1,308	138	30	30	24
スウェーデン								1,230	2,706	2,682	2,475	2,478
英国	2,406	2,058	1,524	1,110	576	2,928	3,966	7,572	8,250	13,344	14,940	12,198
合計	13,770	14,724	15,630	11,442	8,394	9,978	11,592	14,322	14,094	17,358	20,898	16,644

出典：国際ニッケル研究会

---

### <今後の見通し>

2005年のニッケル供給については、多くの生産者が生産計画の下方修正をしている。一方、需要については、中国でのステンレス生産増加による需要回復などが見込まれるため、2005年のニッケル需給は、引き続き堅調に推移すると予想されている。

ニッケル価格については、Metal Bulletin誌では2005年平均価格を14,250ドル/tと予想している。